

虫たち動き始める

3月27日の朝、ハウスの中に植わっている小松菜やカブの上を、ひらひらと舞うモンシロチョウを発見。まだ気温が低く、動きが鈍かったので、思わず両手でパン！と、捕まえてしまいました。

暖かくなって、虫たちが活動を始めると、“虫対策”が必要です。基本的には、①全滅しなければ、多少は食われても仕方ないと思う。②ネットをかけて防げるモンシロチョウなどは、ネットをかけて防ぐ。③小松菜より、ふだん草など、虫に食われにくいものを作る。④虫がつきにくい時期に作る。すなわち、虫を防ぎきれない時期には作らない。⑤虫のいないところで作る。時期をずらして同じものを作るときには、虫が移ってこないように、すぐ隣ではなく、遠く離れた場所で作る。

…その他、虫が発生しやすい環境にしない、肥料を控えめにする、虫を見つけたらつぶす、虫がついていないかよく観察するなどありますが、最終的には、食われてしまったらあきらめます。(今細々と収穫しているキャベツなどのように、その後、復活してくる事もありますが…)



3月11日、これが最後の雪かと思ったのですが、翌週にも、翌々週にも、また雪が積もりました。

虫よけネットをかけて コールラビの苗を植えました



続いてブロッコリや、キャベツ、レタスなどの苗を植えています。虫よけと霜よけを兼ねて、ネットをかけています。

土が乾いた時をねらって うね立て作業開始



雪が消え、やっと畑が乾いてトラクターが入れるようになりました。キャベツ、ジャガイモ、ニンジン、ゴボウ…などなどのうねを準備します。

あたたかくなって タマネギが大きくなってきました



3月18日、2回目の草取りをしました。1月の気温が低かったせいか、霜柱で持ち上がり、浮いてしまった苗が多いです。

tonchanのQ&A

Q. どうしてマルチをするのですか？

うねの上を覆うシートをマルチといいます。その目的は、①地温の上昇、②雑草の抑制です。

気温が低いこの時期や、秋には黒マルチがあるのと無いのとでは、定植した苗の生長の早さが全然違います。気温が低くなっていく秋には、マルチがないと白菜などは収穫できるほど大きく成長しません。欠点は、キャベツや白菜など、まだ暑い時期に定植する場合、地温が上がり過ぎて苗がしおれてしまうことがあります。

野菜と一緒に、冬には雑草も大きくなりませんが、暖かくなってくると生長が早くなり、野菜が草に埋まってしまう。うねを黒マルチで覆うことで日光が遮られ、草が出なくなり野菜の成長もよくなります。

Q. 使い終わった後はゴミにならないのですか？

デンプン・グリコール・脂肪族ジカルボン酸(食品添加物にも使われています)を原料として作られた、生分解性のマルチを使っているので、土壌中の微生物で分解されて二酸化炭素と水になり、土壌には残りません。通常使われている、ポリオレフィン系のマルチに比べて強度が弱く、よく破れますが、収穫後に回収して廃棄する手間がない(ゴミが出ない)のが、大きな利点です。

生分解性なので、微生物の活動が活発な暖かい時期には、張ってから1カ月もすると、土の中の部分から分解が始まり、一年後にはほとんど見当たらないくらいになります。

山本ファミリー農園の畑って、どんなところ？

国営農地開発事業で、山を切り開いて作られた畑です。標高500mの山のてっぺんにあります。天気の良い日には北の方に吾妻山や、比婆山が見えます。気温は、長野と同じくらいです。

私たちは、1996年に入植。まわりには、(株)こだま試験農場の広大な畑が広がっています。



ハウス横の畑の周りは、イノシシよけの柵で囲みました。畑に入るときには、この門を開けて入ります。



今のところ、イノシシよけの柵の中にイノシシは入っていないようですが、囲っていない畑は、イノシシに掘り返されていて、頭が痛いです。

イノシシわなにひっかかった～！

針金を輪にして、しめるようにしただけのわなもどきに、右足をとられました。

「こんなのに絶対引っかからないよ～」と言っていただけに、ちょっとショック…。



長さ50mのハウスが3棟あります。4月になると、この中の一棟にズッキーニの苗を定植する予定です。

昨年、秋に植えたニンニクです。イノシシやシカに踏まれながらも、ここまで大きくなりました。



山のてっぺんにある畑では、頭上に360度の青空が広がります。真っ暗な夜には、満天の星。星が多すぎて、何が何だか分からないほど。まさに銀河の星屑です。

サバイバルキャンプ、できます。獣の気配が少々恐ろしいですが…。

